令和3年第3回定例会

企画産業常任委員会
会 議 録

期日：令和3年9月9日（木）

場所：第2委員会室

大仙市議会企画産業常任委員会会議録

日 時 令和3年9月9日（木曜日） 午前9時57分 ～ 午前11時43分

会 場 第2委員会室

出席議員（6人）

委員長 大山利吉 副委員長 三浦常男 6番 秩父博樹
7番 石塚 柏 25番 鎌田 正 27番 橋村 誠

欠席議員（0人）

説明のため出席した者

企画部長 福原勝人	総合政策課長 加賀貢規
総合政策課参事 新田雅昭	総合政策課副主幹 小笠原潤
農林部長 渡辺重美	農業振興課長 杉山真矢
農業振興課参事 高橋隆伸	農業振興課参事 枝川 元
農林整備課長 佐藤治彦	農林整備課主幹 武藤直喜
農林整備課主査 新田知幸	
経済産業部長 富樫真司	商工業振興課長 熊谷直栄
商工業振興課主幹 今野 智	花火産業推進課長 竹村宏之
花火産業推進課主査 田村将悟	
観光文化スポーツ部長 伊藤優俊	観光振興課長 山崎兼人
観光振興課主幹 川越 裕	温泉施設対策室長 高橋 典
温泉施設対策室主査 須田千枝子	

議会事務局職員出席者

主幹 佐藤和人

審査案件 1 議案第75号 大仙市過疎地域持続的発展基金条例の制定について

- 2 議案第78号 大仙市過疎地域持続的発展計画の策定について
 - 3 議案第80号 令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）
 - 4 閉会中の継続審査（調査）の申し出にかかる事件について
-

午前9時57分 開 会

○委員長（大山利吉） 皆さんおはようございます。

定刻より若干早いですけれども、全員おそろいになりましたので、ただ今より、企画産業常任委員会を開会いたします。

朝夕めっきり涼しくなってきましたので、どうぞひとつ健康管理には十分ご注意くださいまして、特に戦いを目の前にしている皆さんも特別に注意していただければありがたいと思います。

本日の審査は、当委員会に付託されました事件について、お手元に配付の日程表に従って、審査してまいります。

なお、発言をする際は、委員長の許可を得た後で、マイクのスイッチを入れてからお願いたします。

○委員長（大山利吉） 初めに、企画部長からご挨拶があります。福原企画部長。

○企画部長（福原勝人） あらためまして、おはようございます。

議案審査のため、委員会を開催していただきまして、ありがとうございます。

ご審議をお願いいたします案件は、過疎対策に関わります条例案、単行案、補正予算案、それぞれ1件の合計3件であります。詳細は、この後、総合政策課長に説明させますので、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

なお、この場をお借りいたしまして、一言御礼を述べさせていただきます。

今次定例会をもちまして、議員の皆様は改選期を迎えられます。企画産業常任委員会におかれましては、これまで私をはじめとする企画部にご指導を賜り、おかげさまをもちまして、なんとかここまでやってまいりました。これまでのご厚情に対しまして、厚く御礼を申し上げる次第であります。誠にありがとうございました。

改選後は、委員会構成自体も変わるというふうに伺っておりますが、今後ともどうか、さらなるご指導を賜りますよう、お願いを申し上げまして、はなはだ粗辞ではありますけれども、御礼のご挨拶に代えさせていただきます。

本日もどうか、よろしく願いいたします。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

それでは審査に入ります。

初めに、議案第75号、大仙市過疎地域持続的発展基金条例の制定についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。加賀総合政策課長。

○総合政策課長（加賀貢規） おはようございます。総合政策課の加賀です。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、同席職員のご紹介をさせていただきます。

参事の新田でございます。

副主幹の小笠原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議案第75号、大仙市過疎地域持続的発展基金条例の制定について、ご説明申し上げたいと存じます。

資料ナンバー1、議案書の7ページをご覧いただきたいと存じます。

本条例につきましては、「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」に基づき策定を進めてまいりました、本市の新たな過疎計画に登載する事業を推進するとともに、計画期間中の財政負担の軽減及び平準化を図るため、過疎対策事業債を原資に、地方自治法第241条の規定に基づき、新たに基金を設置するものでございます。

なお、本市の新たな過疎計画につきましては、「大仙市過疎地域持続的発展計画」でございますけれども、この後、議案第78号として、ご審議いただく予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

条例案の内容であります。第1条は設置目的を定めており、持続的発展計画に基づく事業を推進し、もって持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上に資するため、本基金を設置する旨を記載してございます。

第2条は、基金の額について定めるもので、基金として積み立てる額は、各年度の予算で定める額としております。なお、今年度の積立額につきましては、後ほどご審議いただきます議案第80号、一般会計補正予算（第4号）において、3千万円を積み立てることとしてございます。

第3条は、基金の管理について定めるもので、基金に属する現金は、金融機関への預

金、その他、最も確実かつ有利な方法により管理することとしており、また、第4条につきましても、運用収益の処理の規定として、基金の運用から生じる預金利子や基金を原資とする事業によって発生する収益については、予算に計上して、本基金に繰り入れる旨を記載してございます。

第5条は、繰り替え運用について定めるもので、財政上、必要があると認めるときは、確実な繰り戻しの方法や期間、利率を定めた上で、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができるものとしてございます。

第6条は、基金の処分について定めるものでございます。第1号には、第1条の趣旨に沿って使用する場合と定めてございまして、過疎地域持続的発展特別事業、いわゆる「過疎ソフト事業」でございすけれども、こちらに充当する場合を定めてございます。

また、第2号には、ペイオフ対策として、第3条に基づき預金として預け入れしている金融機関等がもし破綻した場合に、当該金融機関等から地方債として借り入れしてあります「借入債務」と「預金債権」を相殺するために取り崩すことができるという内容を記載してございます。

以上、ご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようよろしくお願いいたします。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。説明が終了いたしました。

これより質疑を行います。質疑のある方はどうぞよろしくお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） 討論なしと認めます。

それでは、お諮りいたします。本件につきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ご異議なしと認め、本件は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○委員長（大山利吉） つぎに、議案第78号、大仙市過疎地域持続的発展計画の策定に

ついてを議題といたします。

説明を求めます。加賀総合政策課長。

○総合政策課長（加賀貢規） それでは、続きまして議案第78号、大仙市過疎地域持続的発展計画の策定について、ご説明申し上げたいと存じます。

資料につきましては、お手元のタブレットにあります「大仙市過疎地域持続的発展計画について」をご覧願います。

本件につきましては、新過疎法の施行に伴い、引き続き、過疎債などの各種支援措置を受けるため、秋田県が策定した「過疎地域持続的発展方針」に基づき、本市の新たな過疎計画を定めるもので、同法第8条第1項の規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

新法の内容や計画の概要につきましては、7月16日に開催いただきました議員全員協議会におきまして説明させていただいたところでございますけれども、その後、パブリックコメントの実施や秋田県との事前協議を進め、先般、8月20日付で、同法第8条第7項に基づく協議が整ったことから、今次定例会においてご審議をいただくものでございます。

資料の1ページをお開き願います。

新たな過疎計画につきましては、法の規定に基づき、旧過疎計画をベースに過疎対策の理念の変更や持続的発展施策の整理、基本目標や達成状況の評価に関する事項などを追加した上で、秋田県の方針と整合を図りながら作成してございます。

「第1章 基本的な事項」につきましては、九つの項目から構成されており、項目1から3までは「大仙市の概況」や「人口及び産業の推移と動向」「行財政の状況」などを記載してございます。

項目4の「地域の持続的発展の基本方針」につきましては、「本市への新たな人の流れの創出やデジタル社会の構築に向けた取り組みの推進により、持続可能な地域社会を形成するとともに、個性あふれる魅力的な地域資源を磨き上げ、地域活力の向上、地域の活性化、そして地方創生につなげていく」ことを記載してございます。

また、総合計画や総合戦略と連携・連動を図りながら、地域の持続的な発展に資する施策を着実に講じていくことで、「住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の実現を目指す」ことを記載してございます。

項目5の「地域の持続的発展の基本目標」につきましては、「総合戦略」の目標と整合

を図るため、「総人口」や「出生数」「社会増減」など、五つの目標を設定しております。

また、6の「計画の達成状況の評価に関する事項」につきましては、毎年度、PDCAサイクルによる評価検証を行い、市議会にご報告するとともに、ホームページを通じて公表し、市民の皆様から意見を伺った上で評価を確定する内容を記載してございます。

7の「計画期間」につきましては、法の期限が令和13年3月31日までの10年間となっておりますが、国の通知に基づき計画の柔軟性や実効性を確保するとともに、総合戦略との整合性を図るため、前期・後期に分けることとし、令和3年4月1日から令和8年3月31日までの5年間を計画期間と設定してございます。

8の「大仙市公共施設等総合管理計画との整合」では、本計画において予定する公共施設等の整備に当たっては、公共施設等総合管理計画の基本方針に基づくことを記載してございます。

また、9の「本計画とSDGs」では、令和2年3月に策定した「大仙市SDGs基本方針」に基づき、SDGsの理念や要素を反映させながら、本計画の着実な推進を図ることと記載してございます。

2ページをお開き願います。

第2章から第13章までは、法に定められた施策分野ごとに、「取組方針」や「現況と問題点」「その対策」や「計画」「対策の目標」などを記載しております。また、施設整備等が予定されている施策については「公共施設等総合管理計画との整合」を記載してございます。

それでは各章ごとの概要についてご説明申し上げます。

第2章の「移住・定住、地域間交流の促進、人材育成」につきましては、移住定住や地域間交流の促進、人材育成などの対策を記載してございます。若年層の定住・回帰、移住の更なる促進を図るとともに、国内外の交流促進などを通じた関係人口の創出、地域を支える担い手の確保・育成に資する施策を進める内容としてございます。

第3章の「産業の振興」につきましては、農林水産業の振興や地場産業の振興、企業の誘致対策や起業の促進、商業や情報通信産業、観光の振興など八つの対策について記載してございます。また、産業振興に係る税制特例を受けるため「産業振興促進事項」を記載してございます。これは法に定める「減価償却の特例」及び「減収補填措置」に必要な記載であり、産業振興促進区域を市全域とし、過疎法が定める4業種全てを対象業種にする内容としてございます。なお、この特例措置に係る条例改正につきましては、

議案第74号として、税務課から議案を上程させていただいております。

第4章の「地域における情報化」につきましては、電気通信施設の整備、情報化・デジタル化の推進などの対策を記載しております。市民サービスの利便性向上や産業・教育の活性化など、地域の様々な課題の解決に向けたICTの活用と情報通信基盤の維持・充実に努めることとしてございます。

3ページをお開き願います。

第5章の「交通施設の整備、交通手段の確保」につきましては、市町村道や農道、林道の整備、交通確保対策などを記載しております。道路の整備・改良の計画的実施や除排雪体制の充実、橋りょうの長寿命化などのほか、地域の実情に応じた交通システムの維持などを進める内容としてございます。

第6章の「生活環境の整備」につきましては、簡易水道・下水処理施設等の整備、消防・救急施設の整備、その他生活環境等の整備などの対策を記載しております。快適で、利便性と安全性の高い生活基盤の形成を図るため、上下水道の整備や消防・防災体制の充実、衛生環境の整備を計画的に進める内容としてございます。

第7章の「子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進」につきましては、少子化対策と子育て環境の確保を図るための対策や高齢者等の保健・福祉の向上を図るための対策を記載しております。結婚や子育てに「喜び」と「安心」を感じられる「子育てに寄り添うまち」の実現を図るとともに、地域包括ケアシステムの深化や地域全体で高齢者の生活を支える「支え合いの地域づくり」を進める内容としてございます。

第8章の「医療の確保」につきましては、無医地区対策や医療確保対策について記載しております。現在、大仙市内におきましては、無医地区は発生していないというような状況ではありますが、今後も発生しないよう地域医療の維持に努めるとともに、医療機関・団体との連携強化を図りながら地域医療体制の充実に取り組むほか、不妊治療に対する助成制度の拡充などを行う内容としてございます。

4ページをお開き願いたいと存じます。

第9章の「教育の振興」につきましては、教育施設等の整備や集会施設・体育施設・社会教育施設の整備などの対策を記載しております。良好な教育環境の確保に向けた教育施設の計画的な整備や、ふるさと教育、GIGAスクール構想などの推進、芸術文化活動やスポーツ活動の活性化などに取り組む内容としてございます。

第10章の「集落の整備」につきましては、集落や自治会の育成、地域づくりや協働活動の支援による地域の活性化、身近な生活機能が集積する「小さな拠点」づくりの推進のほか、生活基盤の整備や地域の暮らしを地域で支え合う仕組みづくりの促進などの対策を記載してございます。

第11章の「地域文化の振興等」につきましては、地域文化の振興や関連施設の整備等の対策を記載してございます。地域の伝統文化の継承に向けた支援や芸術文化に触れる機会の創出のほか、市内の史跡・文化財の保護・活用について、取り組む内容としてございます。

第12章の「再生可能エネルギーの利用の推進」につきましては、SDGsの推進やカーボンニュートラルの実現に向けて、豊かな水資源や森林資源など本市が持つポテンシャルを存分に生かして、再生可能エネルギーの導入拡大によるエネルギーの地産地消に取り組む内容を記載してございます。

最後の章になりますが、第13章の「その他 地域の持続的発展に関し必要な事項」につきましては、これまで取り組んでまいりました協働のまちづくりをさらに前に進めるとともに、各地域で共助の取り組みを育みながら、持続可能な地域づくり、誰もが活躍できる地域社会の形成を推進する内容を記載してございます。

最後のページ、5ページをお開き願いたいと存じます。

このページにつきましては、ただいま申し上げてまいりました第2章から第13章までの内容を体系ごとにまとめた「一覧表」となっております。

以上、大仙市過疎地域持続的発展計画の概要につきましてご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。説明が終了いたしました。

これより質疑を行います。質疑のある方はお願いいたします。はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） これは計画なので、全体的に網羅したかたちでの計画書ということだと思います。なので、多角度からいろいろ、全体像を取り上げたものだと思いますけど、確か6月議会でも、もしかしたら話したかもしれないですけど、一番、この地域の過疎を食い止めるというか、人口減少を食い止めるというか、一番そのキーになるのが、やっぱり若者の社会減を食い止めるというやつが、この全体像の中でも、一番その重きを置く部分だと、私はそういうふう感じてて、要は、今、昔よりも進学率が高くなってる中で、社会に出る時に、やっぱりここの大仙市って、大学で自分が学んだスキルを

生かすような職種っていうか、企業っていうか、なかなかこれとこれとっというのがないっていう、そういう状況なので、このコロナ禍に乗じて、やっぱり今、そのデジタル化進む中で、オンライン進む中で、本社機能を都市部に置く必要があるのかっていう議論がある中で、その地方への本社機能を移す会社の動きとかもある中で、やはりそこに力を入れてもらいたいっていう思いがあるので、その辺について、全体すごく大事なことなんだけど、特にこの3章の産業振興の中の(3)企業誘致の中の、ここにやっぱり都市部にある本社機能を、この大仙市に引っ張ってくるというところに、今まで以上に力を入れてもらいたいなっていうふうに思います。やっぱりその若者の社会減を食い止めるっていうか、抑制するっていうか、そこに今まで以上に力を入れてもらいたいなっていうふうに思うところなんですけど、その辺について、お考え等伺えればと思います。

○委員長（大山利吉） はい、加賀課長。

○総合政策課長（加賀貢規） ご質問ありがとうございました。議員おっしゃられますとおり、そのとおりだと思います。やっぱり若者の社会減というのが、本当に重要な、本当に大きなといいますか、問題なのかなというふうに認識しております、いわゆる、この計画ではなくて、総合戦略においても、そこを重点課題ということで位置付けて、どうにかしなきゃいかんということで施策を総動員しようというようなことで今考えているところでございます。この過疎計画につきましても、先ほどご指摘いただきましたとおり、第3章のところですね、若者の社会減というようにところで触れさせていただいております、本社機能の移転も含めてですね、企業誘致というのが非常に重要なのかなと。本社機能に至らないまでも、例えば研究関係の部門でありましたり、大卒の子供たちがそこに就職できるようなですね、仕組みづくり、スキームづくりというのが非常に重要なのかなということで、実はこの後、先ほどご審議いただきました基金ですね、あとは、この後ご説明させていただきます基金の積立金というのがございますけれども、そうしたものを駆使しながら、いざ企業が、例えば、企業団地の方にですね、来る際に、やっぱりインセンティブということで、破格の対応をしていければ、もしかして大きな武器になれるんじゃないかなと、で企業を呼んでこれるんじゃないかなというふうに考えております。また、企業誘致だけではなくて、やっぱり地場産業の振興というのも非常に重要かと思っております。例えば、商工業も含めてなんですけれども、農業もですね、今スマート農業ということで力を入れていきたいということで、少しずつ今進んできてるんですけれども、若い子が農業をやって、極端な話、所得が1千万くら

いあるとかですね、そういうようなモデルケースを作れば、後継者に喜んでなるでしょうし、大学で学んできた、例えば、農学部出身の子であれば、そのスキルを十分に生かしてですね、これから大仙市を担っていってくれるように、担い手ということになってくれるんじゃないかなというふうに思っています。あともう一つ、起業ですね、創業企業といいますか、その部分もやはり重要なかなということで、この後ですかね、いわゆる企業支援の補正予算とかということで協議がございましたと思いますけれども、今少しずつですね、その起業を目指す件数が増えてきていると聞いております。その起業をですね、もっともっと高めていって、一人でも二人でも雇用をしてもらええるような、いわゆるスタートアップ、今の言い方するとスタートアップ企業ですね、ドンドンドンドン増やしていって、大仙市で、いろんなチャレンジしてみたいと、そういう若い人たちを他から呼び込めるような、そういう対策も、この中でですね、対応できればいいなというふうには考えてございます。

○委員長（大山利吉） ほかにございませぬか。はい、鎌田委員。

○25番（鎌田 正） 総合政策課だから、全部、13章までが、それぞれ、これ大事な話だと思うんだけど、実は、我々、皆さん、今ちょうど、さっき部長でねども改選時期に入って、それぞれ4年に1回しか行かない集落かなり回ってるわけだけでも、ビックリするのは、やっぱり1人暮らしの隣が空き家、その連続で、非常に大変な問題だなと思って感じている一人ですので、それで第10章の「集落の整備」というところもあるわけですけども、これもやっぱり、もう少しスピードアップして、いわゆる集落の再整備というか、できるならば、かなり金の掛かる話だけでも、小規模な集落と隣同士の集落と合併というか、居住地が一緒にできるような、そういった政策をやっていかなければ、かなりコスト高な、今の、例えば除雪でも、水道でも、下水道でも、かなりコストが高い社会になっていくんじゃないのかなと心配していること一つ。それに伴って、農業の関係も、ただ単に今米が安くなって、昨日ですか、佐藤文子さん、今朝の新聞にもあったけれども、米の値段下がった、「はい、分かりました。」「それじゃ、市で助成しましょう。」、それも大切だかも知れないけれども、やっぱりこれからの農業、もう少し、具体的に、今課長言われたように、法人なんかもそれは素晴らしいけども、法人で引き受けてくれない農地、荒廃地になってるところいっぱいあるわけで、そこら付近も、これ大仙市だけじゃなくて、農協もおばこ農協となれば、もちろん仙北市、あるいは美郷町もあるわけですけども、そういったとごで、全体で取

り組んでいかなければできない事業、事業っていうか、なんか耕作放棄地を少なくしていくような方法を感じてもらわなければ大変ではないのかなと。せば具体的になんとするどがつていうことは、一案ですけれども、これ案だがら、これが全てではないけれども、やっぱり農協と、今言った2市1町で取り組んで、例えば農協主体にして、その耕作地を、きちんといずれ農地を守るといような方向付けが必要ではないのかなと。農地を守るといことは、国土保全のためには絶対必要ではないのかなと、あるいは災害のためにも絶対必要ではないのかなと、こう思っているわけで、そこら付近も具体的に、農業関係はもちろん、この後農林部とかにも必要だ事業だと思うんだけど、そこら付近も具体的によ、総合政策課の方で検討いただければありがたいもんだなと思っております。いずれ、どの章も、これ大切なことだがら、これ一つ一つ刻んで物しゃべっていぐいじ、大変な労力、時間必要だがら、これはその都度、部門ごとに担当部署に質問なり、あるいは要望なりしていくつもりだけれども、全体通しての説明だと思うわけで、これはこれでいい訳だけれども、一番感じたのは、その集落の、旧大曲の人たちはあんまりそんなこと感じてないかもしれないけれども、特に中山間地帯に住んでる我々から見ると、この集落の再整備といつか、そういったこと非常に大事ではないのかなって、今、ここ数カ月の間回ってみて痛切に感じてる。以上です。

○委員長（大山利吉） はい、加賀課長。

○総合政策課長（加賀貢規） ご質問ありがとうございました。

一点目の集落の再整備につきましては、実は私事ですけれども、私の実家の雄和もです、まさに同じような状況になってまして、しかも母一人で暮らしていると。本当に他人事じゃない、自分のことといことで、日々ちょっと個人的にも頭を悩ませているところです。どういようなスタイルがいいのか、大仙市もです、私の婿になってきた鳥居もです、やはり空き家も多くです、荒廃地もやはり無いとはいえないような状況になってきてますし、どうしたらいいんだろうといことで、考えているところがございます。これは全部農業部門に任せるではなくて、やはり自分事として総合政策課としてもです、考えていかなければならないのかなといことで、今改めて決意を新たにしたいといえますか、考えてまいりたいなといふうに思っております。先ほどご提案のありました、その小規模の集落ごとのです、それぞれ単品で、ずっと残っていればいいんでしょうけれども、そうは多分いかないと思しますので、やはり統合といこともです、以前ちょっと考えた時期もあったといふうに聞いてるんですけど、その時

点ではなかなかうまく進まなかったというふうに聞いてるんですが、こういうものはやっぱり時間が結構経ってますので、今提案するともしかして是非やってみたいというところが出てくるかもしれませんので、中長期的な視野に立ってですね、説明をさせていただきながら、やる気のあるところをですね、まずはパイロットケースということでですね、施行させていくような施策を考えていきたいと思います。

あと二点目の農業関係でございますけれども、まさに今ご提案がありましたJAさん、市だけではなくて、やはりJAさん、あとは2市1町でですね、タッグを組んでですね、対策を、今、もう、すぐやらなきゃいけないような状況だとは思うんですね。やはり荒廃状況を見てても、あとは、また個人的な話をすると、自分自身の親もちょっと今体が動かなくなってきました、草刈り一つ取ってもですね、不慣れな私がやっているような状況で、やっぱりなかなか難しいなというふうなところは実感しております。ですので、やはり行政として何ができるんだろうというのを常に考えながらですね、先ほどご提案がありましたタッグ組めるかどうかというのを、ちょっと農業部門とも相談しながら企画、検討していきたいと思いますので、ありがとうございました。

○委員長（大山利吉） はい、鎌田委員。

○25番（鎌田 正） 集落の再整備について、いずれ今、道路の維持管理、あるいは除雪関係も、やっぱり市道あるからには、やっぱり一軒家でも二軒家というのはちょっとあれだけでも、そこまで除雪もしていかなければできない相当のコスト掛かっていると思うわけで、そこら付近も考えてみると、やっぱり集落の再整備して、コストを下げると、そういうことが、また大仙市のためにもなるのではないのかなと思っておりますので、そこら付近を早急に検討していただければありがたいと思っております。以上です。

○委員長（大山利吉） ほかにございせんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） 討論なしと認めます。

それでは、お諮りいたします。本件につきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ご異議なしと認め、本件は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○委員長（大山利吉） 次に、議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、企画部所管の予算を議題といたします。

当局の説明を求めます。加賀総合政策課長。

○総合政策課長（加賀貢規） それでは、議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、総合政策課所管の補正予算について、ご説明申し上げます。

資料ナンバー2-1、主な事業の説明書の4ページをご覧いただきたいと存じます。

歳出2款1項54目90事業、過疎地域持続的発展基金積立金につきましては、先ほどご審議いただきました「大仙市過疎地域持続的発展基金条例」に基づき、令和3年度の積立金として3千万円の補正をお願いするものでございます。

項番1の「事業の目的及び目標」でございませうけれども、本事業につきましては、「大仙市過疎地域持続的発展計画」に基づく事業の推進により、持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上を図るとともに、計画期間中の財政負担の軽減及び平準化を図るため、過疎対策事業債を原資とする基金を設置し、一定額を計画的に積み立てるというものでございます。

項番3の「問題と課題」につきましては、過疎対策事業債のうち、ソフト分の算定額を定める総務省令が施行されておりますが、その算定基礎となる財政力指数が0.56から0.51に引き下げられており、これに伴い、発行限度額についても引き下げられることとなっております。

この引き下げに当たり、国では、令和8年度までを期間に激変緩和措置を講じることとしてございませうけれども、現時点での見通しでは、項番4の中段【参考】に記載しておりますとおり、令和8年度の発行限度額は、令和3年度に比べまして、6,800万円ほど減少する見込みとなっております。こうしたことから、この緩和措置の終了に備え、早い段階からの財源確保が重要となっており、このことが本基金の設置理由の一つとなっているところでございます。

項番4の「事業の概要」につきましては、後年度に実施を予定する事業の財源として、過疎対策事業債を原資に、令和3年度分として3千万円を積み立てるものであり、来年度以降も同額を目標に積み立てを行い、過疎計画の着実な推進と計画期間中における財

政負担の軽減及び平準化に努めることとしてございます。

以上、ご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。説明が終了いたしました。

これより質疑を行います。質疑のある方、お願ひいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

以上で、議案第80号に係る企画部所管の審査は終了いたしました。

なお、討論・表決につきましては、最後に一括で行います。

ここで、説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。準備が整い次第、再開いたします。

午前10時35分 休 憩

.....
午前10時37分 再 開

○委員長（大山利吉） 休憩前に引き続き、審査を再開いたします。

初めに、農林部長から挨拶があります。渡辺農林部長。

○農林部長（渡辺重美） おはようございます。

お時間をいただきまして、大変ありがとうございます。

最近の農林部に関連いたしました情勢について、ご報告申し上げます。

まず昨日佐藤文子議員からもございましたけれども、令和3年産の米価、非常に厳しい概算金の提示という、全国的にそういった状態となっております。実は明日、秋田県においても全農で全県組合長会議が開催されます。その中で、JA全農あきたとしての概算金ということで、各単協の方にはお知らせすると、持ち帰った上で午後には役員会を開催して、今年の農家さんに対する令和3年産の仮渡金を提示ということになる予定されてございます。それで非常に、新潟の魚沼のコシヒカリ以外は、ほぼほぼ全部下げているという状況でございます。一番下げ幅が大きいのが、関東の関係のお米で、業務用品種でありますと、5千円近く下げているという品種もあります。関東辺りでは、コシヒカリが大体1万円から1万500円くらいで、秋田こまち、関東でも当然作っております。それよりも500円くらいは低い設定というような状況のようでございます。なんとか明日、組合長さん方、頑張ってください、1万円はなんとか死守してい

ただきたいなというふうには思っています。

また、大変秋めいてきて、次の季節は冬なるわけですがけれども、こちら委員長からもお問い合わせありました、実は雪害の復旧の状況でございます。

3月に予算の方、ご承認いただいて、復旧の方、農家さんも頑張っておられるんですけども、今回事業の方が三つあったという中で、県の事業の仕分けの方、かなり時間を要してしまって、実際その仕分けルールが決まったのが7月の末頃でした。非常に再三にわたって今年の雪が降ってくるんじゃないかというかたちで県には早く仕分けのルール決めて、できる限り農家さんに給付をお願いしたいということで、今現在320件以上あるんですけども、大体21件くらい、かろうじて県単の方では支払いは完了してございます。これから県単の事業については、200件を超えてあるんですけども、10月中の支払い。あと国の関係は、JAさんが実施主体になって進めておられて、こちらは11月中にはお支払いしたいなど。非常に後手後手で面目ないところでございますけれども、どうかよろしくお支払いしたいと思っております。

あと今年の交換会でございます。

144回県種苗交換会、今年は能代での開催になるんですけども、今コロナという中で非常に中々フル開催というわけにはいかないようで、多分今現状から考えますと去年の横手をもっと縮小したかたちでの開催なるのかなと思うんですけども、要は7月の下旬に秋田おぼこを介しまして中央会から145回大会、令和4年度の種苗交換会は、大仙市でというようなかたちで照会来てございます。すでに開催地の承諾ということで出しておりますけれども、非常に今が真ただ中のコロナの中で非常にその辺、現時点では中々いろいろな制約がかかる可能性もあるんですけども、145回大会、大仙市で開催ということで進めていくこととなろうかと思っております。

あと熊の出没の状況でございます。

この間、新聞で豊岡で梨の食害被害があったというふうなお話ありましたけれども、ちょうどそこにおりを設置いたしましたところ、捕獲されてございます。今年の出没の件数は77件。また、捕獲頭数は29頭という状況でございます。おおむね昨年並みというのは、なんかおかしいんですけども、昨年と同程度の出没あるいは捕獲の状況でございます。

委員長はじめ、議員の皆様におかれましては、それこそ多忙の日々をお送りのことと存じますけれども、引き続き、いろいろな面でご指導賜りますことをお願いいたします。

して、簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきます。

本日の審議、どうかよろしく願いいたします。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

○委員長（大山利吉） それでは、審査に入ります。

議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、農林部所管の予算を議題といたします。

初めに、農業振興課所管の説明を求めます。杉山農業振興課長。

○農業振興課長（杉山真矢） 議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、農業振興課所管分について、ご説明申し上げます。

資料ナンバー2の大仙市補正予算（9月補正）と資料ナンバー2-1の事業説明書により、説明させていただきます。

補正予算書は12ページ、事業説明書は8ページをご覧ください。

6款農林水産業費、1項農業費、3目農業振興費、51事業、低コスト技術等導入支援事業費につきましては、5,391万8千円の補正をお願いするもので、財源は全額県支出金となっております。

事業の目的ですが、本事業は県の新型コロナウイルス対策事業の一つとして実施するものであり、県内農業者の所得が維持できるよう、感染防止対策を行いつつ、スマート技術等を活用した省人化・低コスト化に必要な機械・設備の導入等に対し支援するものであります。

事業の概要であります。県の6月補正により事業化された県補助事業に要望のあった11経営体に係る事業費を計上させていただくものであります。

（1）採択要件ですが、令和5年度における生産コストを10パーセント以上削減し、①スマート技術の導入ではGPS基地局が設置されていること、②低コスト・省力化技術では、多収性品種など業務用品種を導入・拡大することが要件となっております。

（2）実施年度は令和3年度でありまして、（3）補助対象者は、令和5年度まで水稲作業面積が30ヘクタール以上の認定農業者、法人及び個人となっております。

（4）補助対象経費は、①スマート技術では自動運転トラクター、収量コンバイン等、②低コスト・省力化技術では、高密度播種苗対応田植機、フレコン対応機器等であり、

（5）補助率は2分の1以内となっております。

市内の経営体の要望では、①と②を重複しての要望が2経営体あり、①スマート技術に5件、②低コスト・省力化技術に8件となっております。

これらの税抜き事業費1億784万3千円の2分の1の補助額の合計5,391万8千円を補正額として計上しております。

以上、令和3年度大仙市一般会計補正予算(第4号)のうち、農業振興課所管分につきまして、ご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますよう、お願い申し上げます。

○委員長(大山利吉) ありがとうございます。

説明が終了いたしました。これより質疑を行います。

質疑のある方、お願いいたします。はい、秩父委員。

○6番(秩父博樹) 今の事業概要の採択要件のGPS基地局が設置されていることってありますけど、これは今大仙市内でどれくらいあるもんだっすか。

○委員長(大山利吉) はい、杉山課長。

○農業振興課長(杉山真矢) ちょっと今手元にありませんが、いずれそのスマート農業機械、自動運転トラクターなり、田植機なり、そういったところを使ってるところはGPS基地局、公的なものございませんので、それぞれ必須ではあります。この事業につきましては、そのあたりはご自分で設置していただきたいという、そういう要件で、補助対象ではないということを示したもので、ここに記載してるものなんですが、ちょっと現状につきましては、現段階では把握してないところです。申し訳ございません。

○委員長(大山利吉) はい、秩父委員。

○6番(秩父博樹) それは、今設置しているとかじゃなくて、GPS基地局については、今自分たちで設置するからっていうのも、この対象になるっていう、そういう認識になるんだっすか。

○委員長(大山利吉) はい、杉山課長。

○農業振興課長(杉山真矢) おっしゃるとおりです。これから設置するというものもオッケーになります。

○委員長(大山利吉) はい、秩父委員。

○6番(秩父博樹) そうすればイメージとしては、例えば一画の法人あったとして、ここにこの基地局が設置されれば、基地局もいろんな種類あるもんだっすべ、その範囲全部にこれ適用できるものなのか、ちょっとその辺、もし分かる範囲で教えていただけれ

ば、大きいものから小さいものまで、いろいろあるものなのかなと思ってですけど、ちょっとその辺教えていただければ。

○委員長（大山利吉） はい、渡辺農林部長。

○農林部長（渡辺重美） スマート農業の基本となる通信基盤ということなるんですけども、今現在私理解してる範囲で、実は国の事業のスマート農業の実証事業ということで、たねっこさんが国の実証事業の取り組み主体として、農研さんの計画の下で実施してございます。当初、移動基地局ということで、要は持ち運びができるような基地局だったんですけども、今は事務所の方に固定化したかたちで設置されております。基地局として。カバー範囲もいろいろ障害物あったりで、どうも変わるようなんですけども、おおむね20キロぐらいの範囲はカバーする、通信の状態が良ければ、そういう状態であったり、今はスマートの通信に関しても基地局を設置して、トラクターだとか、コンバインだとかを自動運転化するという方式もありますし、あるいは、国土地理院の電子の基準点、そちらを使って位置情報を修正しながら作業をする形態。あるいは、衛星測位システム「みちびき」、それこそGPS衛星、精度の高いものを使って直接機械の方に受信器を付けて自動運転するもの等。非常に、まだこれでいくというものが、まだ見分け付けられないような状態ではあります。その辺、要は、別の基準の通信規格なれば、別のまた対応、金銭的な対応が出るというのであれば、非常にまたなかなか考えづらいと、推進する上でも考えづらい状況ではあるんですけども、これ例えば横手なんかも土地改良区さんが事務局なって基地局を建てて自動運転で作業してあるというような事例もありますので、その辺、あまり余裕を持った選択というのではないとは思うんですけども、その辺、どの可能性が一番あるのかと、その辺を見極めながら、そういった基地局の方も検討していく必要があるのかなと思ってございます。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 分かりました。

せば今現在は、その基地局を設置しなければならないタイプと、さっき言われた「みちびき」が、あれ確か三つ飛んで、かなり精度高い、それ使うってなると基地局なしでできるっていう。それ今のところ、どっちの方向にいきそうなのか、まだ分からないような状況なんだっすかね。

○委員長（大山利吉） はい、渡辺部長。

○農林部長（渡辺重美） 「みちびき」を使えば、その受信装置というのは、技術があれ

ば数十万レベルで出来ますよというようなお話も聞いている状態です。できうれば、そちらの方式の方が機械にそのまま受信機をセットして、いろいろな、自動運転であるとか、省力化を図られる部分なので、そちらに向いていただければ、一番ベストなのかなと思うんですけれども、いかんせんまだそこは、まだそういった業界の中では、まだどれにいくというような状態ではないようです。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 分かりました。

せばまだちょっとその辺は、方向性が定まってないという感じだったか。なるほど、了解です。

あと、このスマート技術って、例えば農薬にしても肥料にしても、散布のバラつきをなくすということまでいって、初めてその技術を使いこなすっていうのが、そういう状況になってくると思うんですけれど、その辺って市内では、どっかやってるところって今あるもんだっすか。やってても実験みたいなかたちになるのかなと思うんですけれど、その辺は今どういう状況ですかね。大仙市内の中では。

○委員長（大山利吉） はい、渡辺部長。

○農林部長（渡辺重美） 要は、今回入る収量コンバインってあるんですけれども、その収量コンバインで、その圃場のマッピングをして、要はメッシュで切って、そこで土壤がちょっと弱いよとか、そういう分析は可能なんですけれども、片や田植え機で、そういった収量のバラつきを抑えるために可変施肥っていう、要は足りないところに多く播くよとか、そういう田植機もすでに市販されてます。あと、ドローンでその圃場のマップされた部分で、非常に肥料分の弱いところ、あるいは多いところ等を補正するというようなかたちもできるようにはなっておりますけれども、なかなかただ、どこの法人さんが例えばそういう対応してるのかというのは、ちょっとまだその段までは理解をしてないんですけれども、これからやっぱりそういう動き、こういう収量コンバイン、そういう目的で開発された機械でございますので、そういう動きも、ひとつ重要な視点ではあるのかなというふうには思います。

来年、秋田版のスマート農業モデル創出事業ということで、大仙市でドローンを、マルチユースということで、要はドローンで種を播いて、そこで施肥から防除からやるというような予定がございます。これ今の現状では、圃場は仙北地域で予定していますけれども、その辺、いろいろな省力化、低コスト化という動きあるんですけれども、それ

ぞれ農家さんの考え方、経営でじゃ、本当に低コストを目指すんだという考え方もあるれば、均一なものがとれるようにやっていくんだと、そういう農家さんの選択それぞれあると思いますので、そういった対応ができる機械の開発も進んでますので、それぞれの方向性に合うような体制がとればな、それに対して助成していくというふうなことができればなどは考えてございます。

○委員長（大山利吉） ほかにございませんか。はい、鎌田委員。

○25番（鎌田 正） 大変、あんたがた気に合わない質問になるんだけど、今の農業振興って、あんた方の将来の大仙市の農業振興のためにスマート農業を進めようということ書いているはずなんだよな。それに対してよ、今のこういったGPSうんぬんがよ、基地局うんぬんなんて分からないけど、誠に情けない答弁だと思って今聞いてらったんだけど、もう少しよ、あんた方もちゃんと調べるなり、この田植機でもトラクターでもコンバインでも、全部で13台が、入る場所なり、あるいはそこでこういったタイプで、こういったかたちで入れるのが、それも把握していないなんて、誠に情けないもんだなって今聞いてらったわけだけでも、もう少しよ、あんた方勉強した方がいいんでね。あんた方、その道の部長はじめ課長だっしべ。ちょっと気に合わない質問だよ。もう少しよ、ちゃんと勉強してよ、俺だもあど任期来るとごだども、もう少しちゃんとした答弁してもらわねば困るよ、これ。これせば、13台どこの地域に入るの。

○委員長（大山利吉） はい、杉山課長。

○農業振興課長（杉山真矢） 今回の13台ですけれども、田植機、コンバイン等々ありますけれども、大曲地域が5経営体、神岡が1、西仙北が2、仙北が1、太田が2になっております。

○委員長（大山利吉） はい、鎌田委員。

○25番（鎌田 正） それぞれ、そうすればGPSの局持つてることだっしべ、その地域で。

○委員長（大山利吉） はい、杉山課長。

○農業振興課長（杉山真矢） それが要件なってますので。

○25番（鎌田 正） したがる、持つてるんだっしべって。

○委員長（大山利吉） はい、課長。

○農業振興課長（杉山真矢） 購入と同時に設置するという計画のところでございます。

○25番（鎌田 正） 俺なんと、あぎれでものしゃべらいねども、もう少しよ、例えば

私の分かってる範囲内でも、今年の春、もはや田植機でGPS使ってまっすぐ植える機械どが入れでる人だっているんだっしべ。もう少し、何と言ったらいいがな、本当ちょっと情けねな。こういって、今の秩父さんの質問に対して、きぱっと明確な答弁できないと誠に情けないなと思って聞いて、本当あんた方大丈夫なのかなと思って、これからのやろうとしてる人たち、あるいはこれからの大仙市の農業、今日はこれだけだから、これ以上の質問はしねんだども、もう少し明確な、このせっかくよ、市で金出してね、全部国県の負担金といいながらよ、もう少し明確な答弁してもらわねば困りますよ。

○委員長（大山利吉） 当局に申し上げますけれども、答弁はなんにも慌てることございません。正確な答弁、的確な答弁が整い次第、挙手して答弁していただければ結構でございます。お願いいたします。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

○委員長（大山利吉） 次に、農林整備課所管の説明を求めます。佐藤農林整備課長。

○農林整備課長（佐藤治彦） 議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、農林整備課所管分につきまして、ご説明申し上げます。

資料ナンバー2、令和3年度大仙市補正予算（9月補正）12ページ、資料ナンバー2-1、主な事業の説明書の9ページをご覧ください。

事業説明書（9月補正予算）により、説明させていただきます。

6款2項5目10事業、継続事業の治山局所防災事業費であります。

補正額316万1千円、補正後の額は1,026万1千円であります。補正額の財源内訳ですが、県支出金が176万1千円、残り140万円が一般財源であります。

事業の概要についてですが、今年の豪雪に伴い、融雪期に発生した山腹の崩壊について4月下旬に確認しております。

被害箇所につきましては、南外地域の大柳地区の1カ所であり、被害状況につきましては、民家の裏側の山が幅8メートルにわたり崩落しております。

その後、崩落した土砂を撤去し一時的に安全性が確保されている状態ではありますが、人家等に直接被害が広がる恐れのある箇所の被害拡大防止のため、崩落したのり面の安定化に向け、県単局所防災事業を活用して復旧するものであります。

復旧方法につきましては、工法を検討した結果、ふとんかごを採用して復旧を図る予定であります。

補正予算の内訳であります。測量設計に係る委託料と工事費あわせて316万1千円です。工事費220万2千円のうち8割の176万1千円が県補助となります。

以上、議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、農林整備課所管分につきまして、ご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（大山利吉） 説明が終了いたしました。これより質疑を行います。

質疑のある方は、お願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

以上で、議案第80号に係る農林部所管の審査は終了いたしました。

なお、討論・表決につきましては、最後に、一括で行います。

ここで、説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。準備が整い次第、再開いたします。

午前11時 4分 休 憩

.....
午前11時 7分 再 開

○委員長（大山利吉） 休憩前に引き続き、審査を再開いたします。

初めに、経済産業部長から挨拶があります。富樫経済産業部長。

○経済産業部長（富樫真司） 企画産業常任委員会経済産業部の委員会審査に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

まずは、先日の議員説明会におかれましては、お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございました。

大曲の花火「秋の章」の中止はもとよりでございますが、茨城県土浦の全国花火競技大会、そして愛知県の蒲郡で行われます第2回花火甲子園など、大きな花火大会も中止が決定されている中、花火業界はもとより、日本の伝統文化である花火継承という意味でも非常に厳しい大変な状況が続いておる状況でございます。大曲の花火に対する緊急的支援につきましては、この後詳しくご説明を申し上げますので、よろしくお願いしたいと思います。

まずは、大仙市のコロナ禍での経済対策について、ご報告を申し上げたいというふうに思います。8月1日時点で、大仙市に住所を有する方々全員に3千円の商品券を交付する消費拡大商品券の交付が今月の1日から始まってございます。交付作業は、市内の8地域、1カ所ずつに窓口を設けまして、7日の火曜日現在でありますけれども、1万5,261世帯、率にして48パーセント、人口でいきますと4万1,213人ということで、こちら率にしますと53パーセント、まず1億1千万以上の商品券が市中に出回っているというか、そういう状況でございます。初日は、多くの方々が会場にお見えになったようでございますけれども、2日目以降は、まずはスムーズにといいますか、順調に感染対策を万全にしながら交付作業にあたってるところでございますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、市内の事業所などで、今年の4月から6月までのいずれか1カ月の売り上げが20パーセント以上落ち込んだ事業主への支援策としまして、経営維持臨時給付金やテナント事業者支援給付金については、7月の26日から始まりまして、今月末までの受付期間を設けて実施しているところでございます。秋田県でも売り上げが大きく落ち込んでいる県内の飲食店や、その関連事業に対しまして、明日開会いたします定例会の中で支援金を提案するというふうにお聞きしておりますが、大仙市としましても県、もちろん国、そういったところの動向を見据えながら、きめ細やかな支援策を講じていきたいと思ひますので、引き続き議員の皆様方には、よろしくお願ひしたいというふうに思ひます。

本日、ご説明申し上げます審議案件ですけれども、創業支援事業をはじめとしました商業振興課の予算と花火産業推進課所管の大曲の花火の継承及び産業構想の推進のための緊急的な支援などについて、ご審議をいただきたいというふうに思っております。

この後、担当課長から説明させますので、よろしくご審議の上ご承認賜りますよう、よろしくお願ひいたします。以上でございます。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

それでは審査に入ります。

議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、経済産業部所管の予算を議題といたします。

初めに、商工業振興課所管の説明を求めます。熊谷商工業振興課長。

○商工業振興課長（熊谷直栄） 議案第80号、一般会計補正予算の商工業振興課所管分

について、ご説明申し上げます。

説明補助員として、今野主幹が同席をしております。よろしくお願いいたします。

資料は、資料ナンバー 2-1、令和 3 年度補正予算（案）9 月補正主な事業の説明書をお願いいたします。

資料の 1 2 ページをお願いいたします。

事業名は、創業支援事業費で、補正前の額が 4 5 0 万円、補正額が 3 0 0 万円、補正後の額が 7 5 0 万円となっております。

財源内訳は、全額が一般財源となっております。

1 の事業の目的ですが、市内で創業を目指す方などに対し、その創業に要する経費の一部を助成し、新たな雇用の創出と地域経済の活性化を図るとともに、移住定住の支援を行うことを目的としております。

2 の実績と成果については、平成 3 0 年度以降では、例年 1 0 件前後の件数で推移しております。

3 の課題についてですが、今後も制度の充実を図りながら、事業を継続していく必要があると考えております。

4 の事業の概要についてですが、交付要件については、囲みの部分、【1】市内で新たに創業または新分野に進出する方で、以下①から⑤に記載のとおりの方が対象でございます。

【2】補助対象経費については、事務所や設備の費用、宣伝広告費用などが対象となっております。

【3】の補助金の額については、経費の 2 分の 1 以内で上限は 3 0 万円となっておりますが、①から④に記載のとおり、各種加算項目を設けております。

囲みの下段の記載部分は、今年度の補助金申請一覧でございますが、8 月末時点で、6 件、3 5 0 万円の助成を行っております。

現在、申請準備段階の案件が 5 件ほどありまして、年度内に 1 1 件程度の申請見通しとなっております。

今年度の交付額の見通しが全体で 7 5 0 万円程度となっておりますので、今般、不足が見込まれます、3 0 0 万円の補正予算について、ご審議をいただきたく、お願い申し上げます。

次に、資料の 1 3 ページをお願いいたします。

事業名は、経営再興支援事業費（新型コロナウイルス対策）で、補正前の額が6,233万3千円、補正額が281万2千円の減額補正、補正後の額が5,952万1千円、財源内訳は、全額が国庫支出金となっております。

1の事業の目的ですが、コロナ禍の影響を受けている飲食業のほか、卸、小売業、生活関連サービス業などの事業所に対して、経営再興のための支援を行うことを目的としております。

2のこれまでの実績については、令和2年度におきましても、テナント事業者等支援をはじめ、各種支援事業を実施しております。

3の課題については、マル点の二つ目になりますが、昨年度以降、各種の支援を継続的に行っておりますが、コロナ禍の長期化により、継続的な支援が必要となっております。現時点におきましても、国や県の各種支援と連携、あるいはその補完を行いながら、事業者や生活者に対する支援を継続して実施しております。

4の事業の概要についてですが、給付金の申請終了により実績が確定したことから、減額補正を行うもので、実績については、囲みの部分、予算額6,220万円に対し、給付実績額が5,940万円、実績率は95.5パーセントとなっております。対象事業者並びに事業の概要は、説明書に記載のとおりとなっております。

以上、商工業振興課所管分の補正予算の概要についてご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

説明が終了いたしました。これより質疑を行います。

質疑のある方、お願いいたします。はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 創業支援事業の方で、令和3年に入ってから創業ってどういったものがあるとか、ちょっと参考に教えてもらいたくてでした。

○委員長（大山利吉） はい、熊谷課長。

○商工業振興課長（熊谷直栄） 現段階で6件ございますが、基本的にはサービス業の方が多いです。WEBデザインの会社を興そうとした方とか、飲食店、それから卸、小売業とか、あと整体マッサージなど、そういった業者の皆さんでございます。サービス業が中心となっております。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 分かりました。これ、交付要件の3番の補助金の金額の中で、移住

後1年以内の創業である場合はっていうことで加算とあるけど、これが、ちょっとすみません、なんか表の見方が良く分かんなくて、これは利用された方がいいことになるんですかね。

○委員長（大山利吉） はい、熊谷課長。

○商工業振興課長（熊谷直栄） 実績のうちの4番の方。情報通信のWEBデザインの会社を立ち上げた方ですが、県外移住者の方でしたので、100万の加算がされておりました。その他事務所経費、広告費など合わせて150万円の助成をさせていただいております。1件該当がございました。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） ちなみに、参考にどちらから来られた方かとかって、これって答えられるもんですか。

○委員長（大山利吉） はい、熊谷課長。

○商工業振興課長（熊谷直栄） 関東圏とお聞きしております。都内と伺っております。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 次の経営再興支援事業の中で、二番目の代行支援、前回17件、実績として130万。確か1台当たり5万円で26台だったと思うっすけど、この時の5万円の根拠ってなんかあったっすかや。5万円にした理由っていうが。

○委員長（大山利吉） はい、熊谷課長。

○商工業振興課長（熊谷直栄） 業者さんとか聞き取りをしたり、あと他の業者さんとのバランスをとりながら、5万円ということに、総合的に勘案させていただいております。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） これは、質問というより、今後を見通してからになると思いますけど、大分長く、この疲弊が続いている。これに限らず全部の業界同じ状態ではあるんだっすけど、最近になってもやっぱり代行業者さんの悲鳴が絶えず聞こえてくるので、今後の取り組みとして、予算措置もしできるのであれば、今後も検討をしていただきたいという、お願いして終わりたいと思います。

○委員長（大山利吉） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

次に、花火産業推進課所管の説明を求めます。竹村花火産業推進課長。

○花火産業推進課長（竹村宏之）　続きまして、花火産業推進課所管分についてご説明いたします。

本日、説明補助員といたしまして、田村主査が同席しております。よろしくお願いいたします。

資料ナンバー２、予算書の方が１３ページですが、主な事業の説明書の１０ページの方で、ご説明をしたいと思います。

７款商工費１項２目３４事業、花火産業構想アクションプラン推進事業費でございます。

補正前の額が３，７６７万４千円、補正額が２，０００万円の減額、補正後の額が１，７６７万４千円です。

４のアクトをご覧ください。

当初、「大曲の花火」公園観覧会場整備のための負担金として、２，０００万円を計上しておりましたが、第９４回全国花火競技大会の開催延期を受け、会場整備についても行わないこととしたため、不用となったものでございます。

参考までに、これまでの整備の経緯、経過を一番下のカラーの状況で説明をさせていただきます。

続きまして、主な事業説明書の１１ページをご覧ください。

７款１項２目３５事業、花火振興事業緊急支援事業費（新型コロナウイルス対策）でございます。

８月１７日に説明会を開催させていただいた案件でございます。ご協議をいただきましてありがとうございます。

補正額は９，６６４万５千円、財源の内訳は国の地方創生臨時交付金が２，３８１万２千円、一般財源が７，２８３万３千円です。

プラン、事業の目的でございますが、第９４回全国花火競技大会の２年連続開催延期によりまして、その開催運営費用を担う大曲商工会議所「花火振興事業特別会計」の深刻な収支悪化、またコロナ禍において市内花火会社の経営状況が著しく落ち込んでいることから、「大曲の花火」自体の存続が危ぶまれているため、その伝統文化の継承及び花火産業構想の推進体制の維持のために緊急的な支援を行うものであります。

４のアクト、事業の概要でございますが、一つ目が、花火振興事業緊急支援金として、花火振興事業特別会計の令和３年度末赤字見込み額５，８６４万５千円の支援を行います。

す。二つ目は、市内花火会社緊急支援金として、コロナ禍による売上高減少額と売上高減少率の相関により金額を設定し、5社の合計で3,800万円の支援を行います。

1910年に始まり、110年以上の歴史と権威、格式を誇る「大曲の花火」が危機的状況にひんしており、それを途絶えさせることなく後世に継承するために必要な支援と考えております。

続きまして、主な事業の説明書14ページでございます。

7款1項4目53事業、地域の花火大会等応援事業費です。

補正前の額2,740万円、補正額1,300万円の減額、補正後の額1,440万円です。

4番のアクトでございますが、当初支援を予定しておりました花火大会等が、新型コロナウイルス感染拡大により中止となったため、その分が不用となったものであります。

秋の章につきましても中止が決定いたしました。補助予定額の取り扱いにつきましては、今後、財政課と協議をいたします。

なお、財源については、当初、過疎債として2,240万円を充当する予定でしたが、起債対象となる事業が実施されない可能性が高いことから、市債全額を一般財源へ振り替えることとしております。

以上、ご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜われますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

説明が終了いたしました。これより質疑を行います。

質疑のある方、お願ひいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

○委員長（大山利吉） 以上で、議案第80号に係る経済産業部所管の審査は終了いたしました。

なお、討論・表決につきましては、最後一括で行います。

ここで、説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。準備が整い次第、再開いたします。

午前11時27分 休 憩

.....
午前 11 時 29 分 再 開

○委員長（大山利吉） 休憩前に引き続き、審査を再開いたします。

初めに、観光文化スポーツ部長からご挨拶があります。伊藤観光文化スポーツ部長。

○観光文化スポーツ部長（伊藤優俊） 大変お忙しい中、常任委員会を開催いただきまして、ありがとうございます。

観光文化スポーツ部が4月から新設されまして、半年を迎えようとしております。私事ではありますが、引き継ぎを受けたものの最初の内は手探り状態で業務に当たっておりましたが、ようやく部局としての目指す方向性のプロセスが見え始めてきたところがあります。新型コロナウイルス感染拡大の収束がいまだ見通せない状況にあり、困惑してしまうのが現実でございますが、今後の状況を見極めながら、業務の遂行に気を引き締めてまいりますので、ご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、本日のご審議をお願いいたします観光文化スポーツ部の案件は、一般会計補正予算案3件について計上をお願いするものであります。

詳細につきましては、この後、担当課長よりご説明いたしますが、ご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。簡単ですが、私からの挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

○委員長（大山利吉） それでは、審査に入ります。

議案第80号のうち、観光文化スポーツ部所管の予算を議題といたします。

初めに、観光振興課所管の説明を求めます。山崎観光振興課長。

○観光振興課長（山崎兼人） 議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、観光振興課所管の補正予算につきましてご説明申し上げます。

資料ナンバー2、補正予算書（9月補正）の13ページ、及び資料ナンバー2-1、事業説明書の16ページをご覧ください。

7款1項4目73事業、指定管理施設等支援事業費（新型コロナウイルス対策）につきましては、3,200万円を補正し、補正後の額も同額とするものであります。

本事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により収入が大幅に減少している市所有の温泉や道の駅などの指定管理施設等について、指定管理協定書における「不可抗力

によって発生した費用等の負担」に関する取り決めなどに基づき、今年2月から7月を対象に、前々年同期と比較した減少額に応じて、段階別の補助金の額を設定し補助するものであります。

なお、施設ごとの補助額は、4のアクト内の表のとおりとなっております。

続きまして、事業説明書17ページをお願いいたします。

7款1項4目76事業、「全国へ届け大仙の味」特産品発送支援事業費（新型コロナウイルス対策）につきましては、836万円を補正し、補正後の額も同額とするものであります。

これは、新型コロナウイルスの感染拡大による県外への往来に自粛を求められている状況の中で、市の特産品を発送する際の送料を支援し、販売を促進することでさらなる消費の喚起、販路拡大、観光振興を図るものであります。

事業につきましては、市内全域の特産品を取り扱っている唯一の団体で関連事業者とのつながりが強いことから、一般社団法人大仙市観光物産協会に業務委託し、参加事業者を広報等を通じて募集するものであります。

送料助成の対象期間は、需要拡大が見込める令和3年11月から令和4年1月ころまでの、いわゆる年末年始としまして、広く周知するため新聞広告に加えて首都圏ふるさと会や友好交流都市へのメールやチラシ発送を行う予定であります。

以上、ご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

説明が終了いたしました。これより質疑を行います。

質疑のある方、お願いいたします。はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 今の二つ目の事業、これタイトルが、全国へ届けっていうふうなタイトルになってるところですけど、これ新聞広告のところ見ると、これ県内の新聞だけに広告を出すようなかたち、それでなんかちょっとタイトルと整合性がっていうか、ちょっと今そこ感じたので、これはやっぱり検討した結果、これが効果あるっていうかたちで、こういうふうなかたちにしたことですかね。全国へ届けなので、この周知の方法というか、もうちょっと安価に拡大できるような、なにかそういうのとかも検討されたものなのか、ちょっとその辺伺えればと思います。

○委員長（大山利吉） はい、山崎課長。

○観光振興課長（山崎兼人） ただ今の秩父委員のご質問に対して、お答え申し上げます。

新聞広告につきましては、さきがけ新聞を今想定しております。基本的にご購入される方は、やはり市内の方が市外のお知り合いの方に贈り物、年末年始のお歳暮品を一つ想定しております。

一方で、県外からの需要という拡大もありますと、先ほど若干説明いたしましたが、座間市、例えば宮古市、いろいろ交流都市、宮崎市もありますので、そういった方たちに今までいろいろな移住定住促進課、交流促進課の方を通じまして、そちらの方からも受け入れてもらえるようなかたちを想定はしております。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 年末年始のお歳暮というか、その辺のことで近隣の市町村。分かりました。

あとそうすれば、宮古市と座間市の方への周知というのは、これとはまた別口でなにかやるっていう考え方なるんですかね。

○委員長（大山利吉） はい、山崎課長。

○観光振興課長（山崎兼人） ご質問の内容ですけれども、この中で、宮古市の観光協会がありますので、そちらの方もやりますし、市役所同士でもつながりがありますので、チラシを送って、そういったかたちで、その中で展開してもらうことを想定しております。

○委員長（大山利吉） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

次に、温泉施設対策室所管の説明を求めます。高橋温泉施設対策室長。

○温泉施設対策室長（高橋 典） 温泉施設対策室の高橋です。よろしく申し上げます。

それでは、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）のうち、温泉施設対策室所管分について、ご説明申し上げます。

今回の補正は、協和地区温泉の2号井ポンプ場の場内配管改修に係る経費の歳入歳出予算について、補正をお願いするものであります。

歳出予算につきまして、説明いたしますので、補正予算書の13ページと資料ナンバー2-1、事業説明書の15ページを併せてご覧願います。

7款1項4目33事業の協和地区温泉管理費に497万2千円を追加し、補正後の予

算額を1,450万7千円とするものであります。補正額の財源内訳は、全額一般財源となります。

協和地域におきましては、協和温泉供給条例に基づき、「四季の湯」のほか、民間事業者等5者へ源泉の供給を行っております。

令和2年度に2号井の源泉井戸洗浄及び源泉ポンプ交換工事を実施したところ、ポンプ室下の地中配管から漏水が発見されたことから、仮設配管による補修を行い、他に漏水箇所がないか経過を観察していたところです。今般、ほかに漏水箇所がなく、施工方法及び施工範囲が確定したことから、配管の本復旧に係る工事請負費を計上するものであります。なお、工期につきましては、降雪前の完了を予定しております。

以上、ご説明申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。

説明が終了いたしました。これより質疑を行います。

質疑のある方、お願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

○委員長（大山利吉） 以上で、議案第80号に係る観光文化スポーツ部所管の審査は終了いたしました。

なお、討論・表決につきましては、最後一括で行います。

ここで、説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。準備が整い次第、再開いたします。

午前11時39分 休 憩

.....

午前11時42分 再 開

○委員長（大山利吉） 休憩前に引き続き、審査を再開いたします。

議案第80号、令和3年度大仙市一般会計補正予算（第4号）を再び議題といたします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） 討論なしと認めます。

それでは、お諮りいたします。本件につきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ご異議なしと認め、本件は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○委員長（大山利吉） 次に、閉会中の継続審査及び調査の申し出にかかる事件について、お諮りいたします。

お手元に配付しました事件につきましては、議長に対し、閉会中の継続審査及び調査の申し出をいたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

○委員長（大山利吉） 以上で、当委員会に付託された事件の審査は、全て終了いたしました。

なお、本委員会の「審査報告書」及び「委員長報告」の案文につきましては、委員長にご一任願いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ご異議なしと認め、そのように決しました。

これで、企画産業常任委員会を閉会いたします。

大変ご苦労様でございました。

午前 11 時 43 分 閉 会

委員会条例第29条第1項の規定により、ここに署名する。

令和3年 月 日

企画産業常任委員会委員長 大山利吉